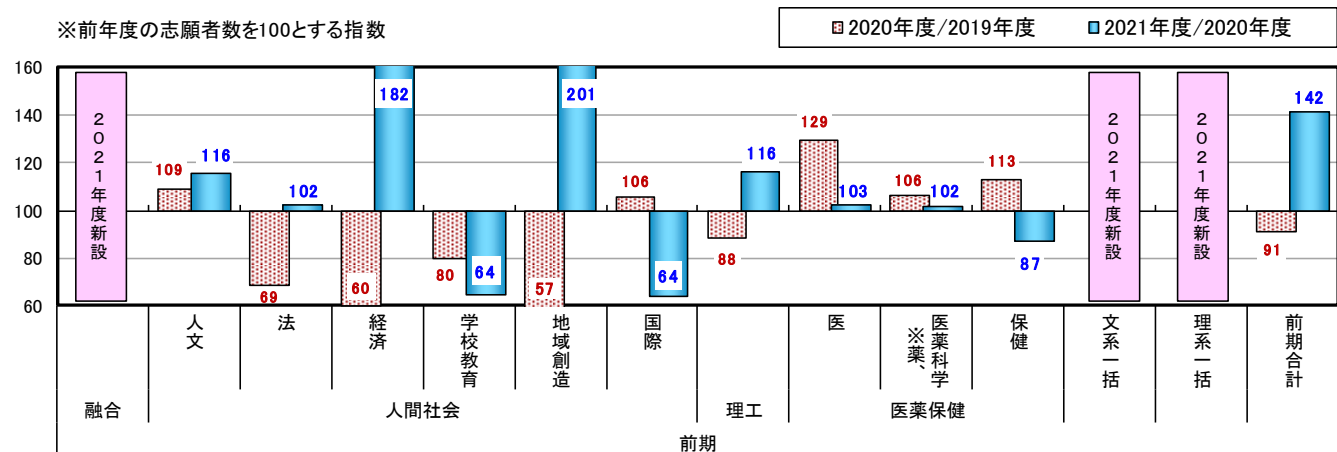


# 2021年度入試状況分析【国公立大】

金沢大：後期廃止で前期大幅増加も志願倍率アップは0.3ポイント

前期：+1,098人



※2021年度(薬)、(医薬科学)は、2020年度(薬)、(創薬科学)と比較

## 入試変更点

学域新設：融合(先導科学)…<前>(文系)20人、(理系)20人  
 ※学域募集以外に一括入試からの移行人数=(文系)3人、(理系)3人  
 学類改組：医薬保健(薬)(創薬科学)→(薬)(医薬科学)  
 選抜方法：調査書の扱い変更…学力検査合計点での可否のボーダー層の志願者へのみ調査書を点数化した得点を加算して可否を判定(配点は共通テストと個別試験の合計配点の概ね2%)  
 後期廃止…人間社会(人文、法、地域創造、国際)、  
 理工(数物科学、物質化学、地球社会基盤)、  
 医薬保健(保健/看護、放射線技術科学、検査技術科学)  
 日程変更…文系一括入試<後>62人→<前>68人、理系一括入試<後>82人→78人  
 人間社会(法)…方式別募集から学科募集へ  
 学類別募集へ変更…(薬(6年制))と(創薬科学(4年制))の一括募集  
 →(薬(6年制))、(医薬科学(4年制))の学類別募集  
 医薬保健(保健/理学療法、作業療法)<前>…理学・作業併願入試新規実施  
 募集人員：人間社会(人文)<前>…100人→123人、(経済)<前>…110人→106人、(学校教育)<前>…64人→58人  
 (地域創造)<前>…55人→63人、(国際)<前>…48人→53人  
 理工(数物科学)<前>…64人→71人、(物質化学)<前>…55人→69人  
 (機械工、フロンティア工、電子情報通信)<前>…252人→239人 ※3学類一括入試  
 (地球社会基盤)<前>…78人→80人、(生命理工)<前>…50人→49人  
 医薬保健(薬)<前>…32人→53人  
 (創薬科学)<前>…32人→(医薬科学)<前>18人 ※2020年度は(薬)と(創薬科学)は一括募集  
 (保健/看護)<前>…55人→64人、(保健/放射線技術)<前>…29人→36人  
 (保健/検査技術科学)<前>…29人→32人  
 個別試験：人間社会(人文)<前>…国+外→国+外+総合問題 ※総合問題追加  
 (経済)<前>…数+外→国+数+外 ※国語追加  
 (学校教育)<前>…(選択パターンA)外+(国 or 数 or 理)→国+外+(数 or 理 or 総合問題)  
 ※国語が選択から必須へ、選択に総合問題追加  
 (学校教育)<前>…(選択パターンB)外+(国 or 数 or 理)→数+外+(国 or 理 or 総合問題)  
 ※数学が選択から必須へ、選択に総合問題追加  
 (地域創造)<前>…(国 or 数 or 外)から2→国+数+外 ※3教科必須へ  
 (国際)<前>…国+外→国+外+(数 or 総合問題) ※選択に数学と総合問題追加  
 医薬保健(医)<前>…数<200>+理2<200>+外<200>+面<100>=総点<700>  
 →数<300>+理2<300>+外<300>+面<150>=総点<1,050> ※配点変更  
 (保健/看護)<前>…理+外→数+理+外 ※数学追加  
 (保健/理学療法、作業療法)<前>…理+外→理2+外 ※理→理2へ

## COMMENT ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は後期廃止による募集人員の増加(募集人員の前年度対比指数120)の影響と2年連続減少の反動で1,098人(142)の大幅増加だが、志願倍率は2.1倍→2.4倍のアップに留まった。前年度の後期を含めた前・後期合計の志願者数との比較では、前年度2,200人近い志願者数だった後期の廃止の影響は大きく、(77)の大幅減少。

## <前期日程>

○新設の融合は、志願者数141人、志願倍率3.5倍。方式別の志願倍率は(文系)が3.7倍、(理系)は3.4倍だった。  
 ○人間社会(118)は、大幅増加。学類別で増加したのは4学類で、(地域創造)(201)、(経済)(182)は前年度大幅減少の反動で激増。(人文)(116)は大幅増加で2年連続増加だが、募集人員の増加率(募集人員の前年度対比指数123)が上回ったため志願倍率は2.0倍→1.9倍にわずかにダウン。(法)(102)は前年度大幅減少の反動はほとんどなく微増に留まった。一方で減少した2学類は系統への人気も低いこともあっていずれも大幅減少で、(学校教育)(64)は2年連続大幅減少。(国際)(64)は2年連続増加の反動で大幅減少。

## 2021 年度入試状況分析【国公立大】

- 理工(116)は、2年連続減少の反動で大幅増加。募集単位別では、(生命理工)(93)は前年度の大幅減少に引続き、やや減少で5つの募集単位中で唯一減少。(数物科学)(145)は3年連続減少の反動で大幅増加。(物質化学)(120)は2年連続減少の反動で大幅増加だが、募集人員の増加率(募集人員の前年度対比指数125)が上回ったのため志願倍率は2.2倍→2.1倍にわずかにダウン。3学類一括入試の(機械工・フロンティア工・電子情報通信)(118)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。(地球社会基盤)(102)は、前年度大幅増加の反動はなく微増。
- 医薬保健(医)(103)は、前年度大幅増加の反動はなく2年連続増加。志願倍率は3.8倍で、第1段階選抜が、実施予告倍率3倍程度を上回ったため、実施され合格率は79.7%だった。
- 医薬保健(保健)(87)は、前年度増加の反動で減少。募集単位別では、(保健/検査技術科学)(144)は2年連続減少の反動で大幅増加、4つの募集単位中唯一増加。理学・作業併願入試を新規実施の(保健/理学療法、作業療法)(66)は大幅減少で併願可の効果は見られなかった。(保健/看護)(72)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。
- 医薬保健(薬)(医薬科学)の合計(102)は、前年度の(薬)(創薬科学)の合計との比較では、微増だが2年連続増加。今年度から6年制の(薬)と4年制の(医薬科学)に分けての募集となったが、それぞれの志願倍率は薬剤師養成の(薬)が資格直結型であることから人気が高く3.4倍、一方で(医薬科学)は1.1倍と4年制の募集人員削減にも関わらず低倍率となった。
- 後期から日程変更した一括入試は、<文系>が志願者数371人、志願倍率5.5倍。<理系>が、志願者数321人、志願倍率4.1倍だった。後期実施だった前年度の志願倍率は<文系>が5.5倍、<理系>が6.4倍だったが、前期合格による欠席者が多く、実質倍率は文系1.8倍、理系2.4倍だったので、前期移行により競争は激化した。